

Reporting on 2nd Value Balancing Alliance Pilot Study

(バリュー・balancing・アライアンス第2次パイロット・スタディ)

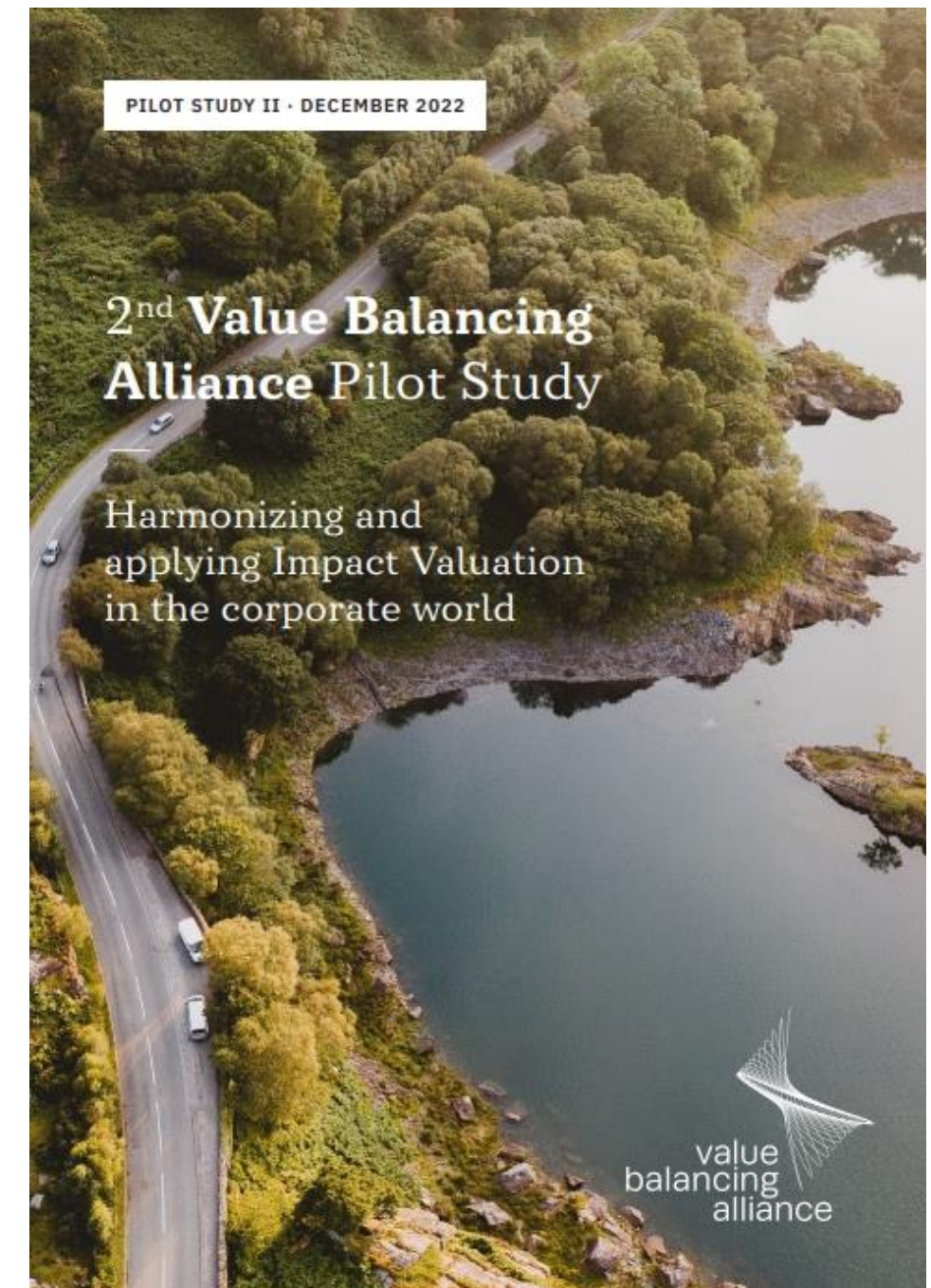
The Value Balancing Alliance (VBA)
2022年12月

原祥子 抄訳・まとめ



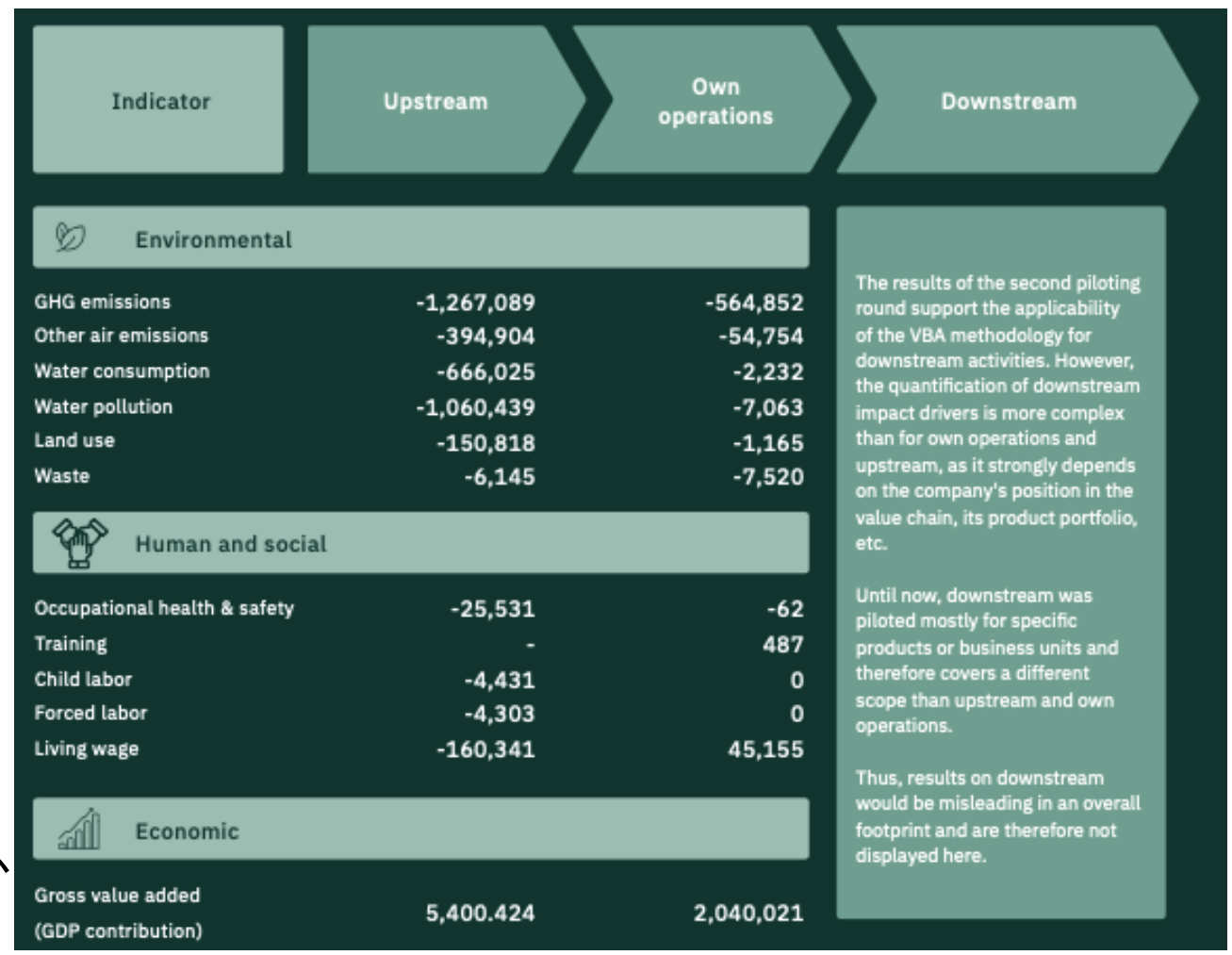
バリュー・balancing・アライアンス (VBA)

- バリュー・balancing・アライアンス([The Value Balancing Alliance \(VBA\)](#))は、持続可能なビジネス・パラダイムを目指す、インパクト評価に関する[2nd Value Balancing Alliance Pilot Study \(VBA第2次パイロット・スタディ\)](#)を2022年にリリースした。このスタディは、企業が社会的・環境的影響を管理することが喫緊の課題となっていることを強調し、その評価を企業の意思決定に統合する持続可能なビジネスの成功モデルを目指している。今回の更新には、強制労働、児童労働、生活賃金に関連する社会的影響を捉える新たな3つの指標と、企業のバリューチェーンの川下活動や製品ポートフォリオに手法を適用するための追加ガイダンスが含まれている。パイロット版は2021/2022年に実施され、株式会社三菱化学グループなど11業種のVBAメンバー企業19社が参加した。
- 近年、透明性と一貫性があり比較可能なサステナビリティ・パフォーマンス・データを求めるステークホルダーの要求に後押しされ、企業セクターにおけるサステナビリティの測定と報告の重要性が高まっている。そのような環境の中、この文書では、財務データと非財務データのギャップを埋め、企業が自然、社会、経済に与える影響を包括的に把握する手法として、インパクト測定・貨幣価値換算法 (IMV) を紹介している。VBAは、大手会計事務所の支援を受け、**ビジネスの焦点を利益の最大化から価値の最適化へとシフトさせることを目的とした方法論を開発した**。この方法論は、社会や環境に対する外部影響（社会にとっての価値）：インサイド・アウトと、外部持続可能性要因が企業価値に与える影響（ビジネスにとっての価値）：アウトサイド・インの両方を評価するものである。



バリュー・バランス・アライアンス(VBA)の方法論とは？(1)

- VBAは、環境、社会、経済へのインパクトを含む企業価値創造の包括的な視点を統合することで、企業の成功を再定義することを目指している。このアプローチは、利益の最大化から、持続可能なビジネス慣行を強化するバランスの取れた視点へと焦点を移すものである。方法論第2パイロット・スタディでは、右の図のように、バリューチェーン全体（川上-自社事業-川下）における事業活動の経済的、環境的、社会的、人的資本的影響を対象としており、企業が生み出す価値の総体を包含している。各指標は、科学的研究と経験則に基づいて開発されたインパクト・パスウェイ（インプット、アウトプット、アウトカム、インパクト）に基づいている。
- VBAの手法は、財務的な成果だけでなく、社会的、環境的、経済的なインパクトを測定することの重要性を強調している。この全体論的(ホリスティック)アプローチは、持続可能な開発にとって極めて重要である、企業の社会に対する総合的な足跡と影響力を理解するのに役立つ。
- 持続可能性の多次元側面に取り組む総合的な視点を提供するため、VBAはエコシステムの主要なプレーヤーとの協力と連携し、標準化された方法論を開発している。VBAは、欧州委員会が導入したダブル・マテリアリティの概念と、IFRS ISSBが提唱するビルディング・ブロック・アプローチを支持している。国際的な「影響を評価する財団」であるIFVI、WifOR、GIST、Rethinking Capitalなどのパートナーと協力し、その結果生まれた方法論は各国政府などの著名な組織や、主要な大学や研究機関の確固とした研究など、広く受け入れられている成果に基づいている。



図は、バリューチェーンの中間に位置する製造業1社について、指標別、バリューチェーンレベル別に推定された影響を示している。結果の表示はまだ統一されておらず、加算式ではないことに留意されたい。(単位はすべて1,000米ドル)。

バリュー・バランスング・アライアンス(VBA)の方法論とは？(2)

企業の成果は、右図のように、環境的、社会的、経済的に社会に与える影響から構成され、すべての構成要素は金銭的に見積もることができる。

・しかし、マイナス影響とプラス影響を純額で評価してはならないことに留意する必要がある。プラスの影響とマイナスの影響は、必ずしも同じ地域やバリューチェーンの同じレベルで発生するわけではない。例えば、右図の例では、この企業の環境影響の金額は”（自社事業運営）Own operation”よりも”Upstream（川上のバリューチェーン）”の方が大きく、ほとんどの影響が川上のバリューチェーンで発生していることがわかる。

・3つの側面の影響に関して、右図を例に以下説明する。

Environmental: 環境的側面の影響に関しての方法論は、温室効果ガス排出、その他の大気排出、水消費と水質汚染、土地利用、廃棄物によって発生する社会的コストを考慮している。

Human and social: 社会的側面の影響に関して方法論は、労働安全衛生、研修（自社事業の場合）に加え、追加された3つの指標（児童労働、強制労働、生活賃金からの影響）を考慮している。

Economic: 経済的側面の影響に関して方法論は、財務諸表や年次報告書で公表される企業の財務実績と類似していると思なされることが多い。しかし、財務報告以外の粗付加価値（企業のGDP貢献度）は、例えば財務報告における利益のように株主だけを考慮するのではなく、むしろ複数の利害関係者を考慮し、国民経済計算体系（System of National Accounts）との橋渡しをする。

Indicator	Upstream	Own operations	Downstream
Environmental			
GHG emissions	-1,267,089	-564,852	
Other air emissions	-394,904	-54,754	
Water consumption	-666,025	-2,232	
Water pollution	-1,060,439	-7,063	
Land use	-150,818	-1,165	
Waste	-6,145	-7,520	
Human and social			
Occupational health & safety	-25,531	-62	
Training	-	487	
Child labor	-4,431	0	
Forced labor	-4,303	0	
Living wage	-160,341	45,155	
Economic			
Gross value added (GDP contribution)	5,400,424	2,040,021	

The results of the second piloting round support the applicability of the VBA methodology for downstream activities. However, the quantification of downstream impact drivers is more complex than for own operations and upstream, as it strongly depends on the company's position in the value chain, its product portfolio, etc.

Until now, downstream was piloted mostly for specific products or business units and therefore covers a different scope than upstream and own operations.

Thus, results on downstream would be misleading in an overall footprint and are therefore not displayed here.

図は、バリューチェーンの中間に位置する製造業1社について、指標別、バリューチェーンレベル別に推定された影響を示している。結果の表示はまだ統一されておらず、加算式ではないことに留意されたい。(単位はすべて1,000米ドル)。

バリュー・balancing・アライアンス(VBA)の方法論とは？(3)

VBAのインパクト測定・貨幣価値換算法(IMV)は、事業活動の社会的、環境的、経済的インパクトを金銭的に定量化する。持続可能なパフォーマンスに関する情報を金銭的に評価することで、企業的意思決定者は以下3つのことが可能になる。VBAはインパクトを金銭的に評価することの重要を強調している。



01. 持続可能性をコアビジネスに組み込む

企業活動の社会的・環境的影響が金銭的に評価されることで、ビジネスリーダーや投資家が容易に理解できる言語に翻訳される。それによって、企業は持続可能なパフォーマンスをビジネス・ステアリングに統合することができる。



02. 重要なトピックの特定

企業活動の社会的・環境的影響を金銭的に評価することで、企業にとって重要なトピックを明確に把握することができる。例えば、どの影響（大気汚染、水消費など）がビジネスにとって相対的に重要であり、その結果、ビジネスモデルや社会に対してより高いリスクをもたらすかを、貨幣価値評価によって特定することができる。IMVに基づき、企業のバリューチェーン全体を評価することができるため、利害関係者は、バリューチェーンのどこで重大な影響が発生しているかを一貫して把握することができる。

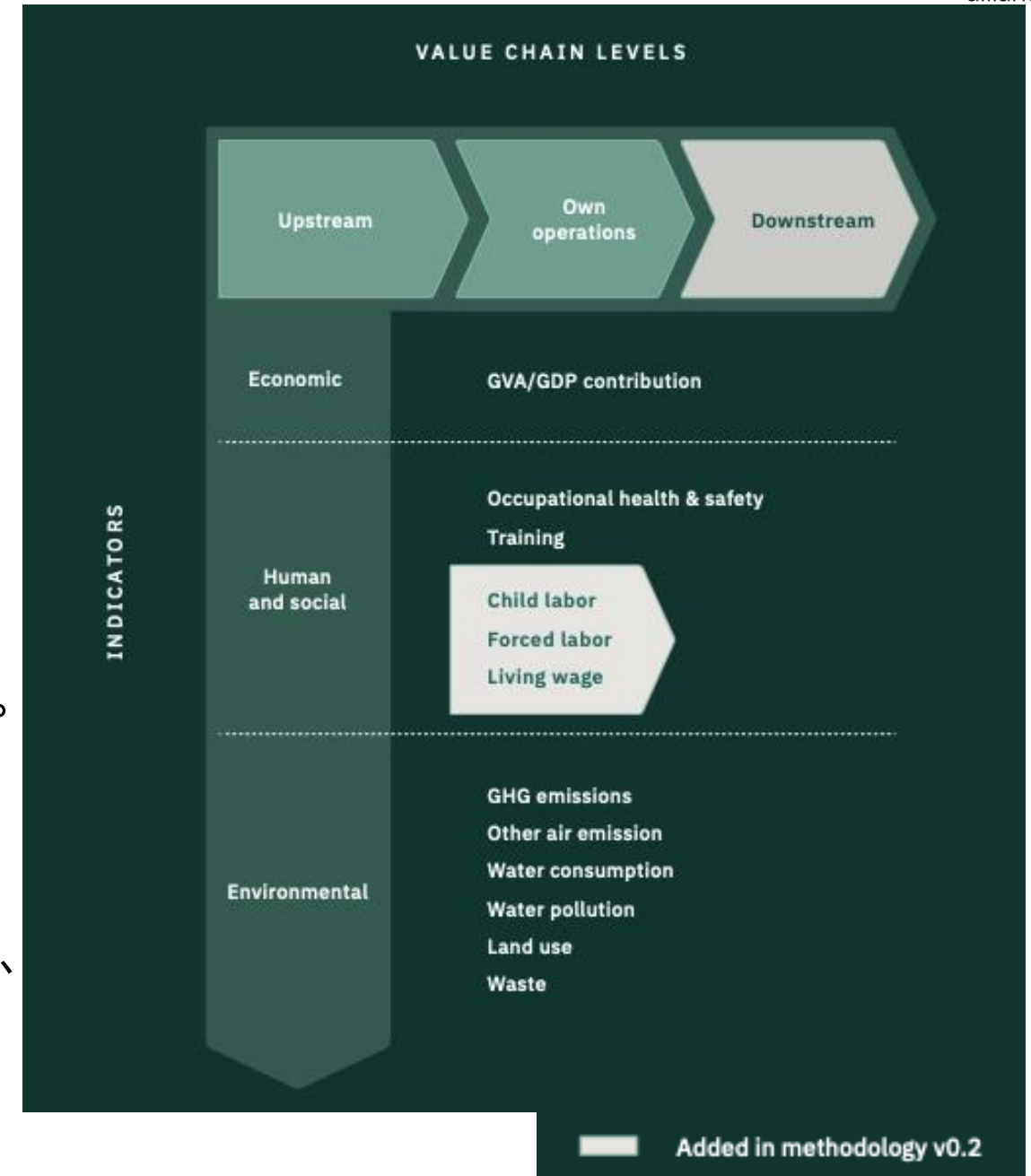


03. 情報の文脈化

企業活動の社会的・環境的影響は特定の条件（例えば、乾燥地域と多湿地域の採水など）に左右されるため、国や地域ごとに異なる評価係数を用いることで、意思決定者はより容易に文脈を把握することができる。例えば、同じ量の水を消費しても、水不足の地域では、水が豊富な地域よりもマイナスの影響が大きくなる。

バリュー・バランスング・アライアンス(VBA)手法の更新

- 今回の試験運用でテストされた手法の更新は、主に社会的側面と、企業のサステナビリティ・フットプリントの評価におけるバリューチェーンの川下の活動の統合に焦点を当てたものである。社会的側面に関しては、①児童労働（基本的人権の侵害による社会的悪影響）、②強制労働、③生活賃金からの影響（労働安全衛生指標）という、3つの追加指標が補完されている。③生活賃金指標で把握される影響は、生活賃金レベルを超えるか下回るかの賃金支払いによって、プラスにもマイナスにもなる。3つの新しい社会指標に加え、研修指標の微調整も行われた。
- VBAの手法は、主要な大学や、OECD、Capitals Coalition、WBCSDといった著名な組織による最近の実証的かつ概念的な研究に基づいて、時間をかけて進化している。VBAの方法論は、フィードバックを通じて継続的に改良され、最新の研究とステークホルダーの意見を取り入れて更新される。また、企業のサステナビリティ・パフォーマンスをより総合的に把握するための指標の追加開発や、手法の既存要素の改良を、継続的に更新している
- 方法論をサステナビリティの最前線に位置づけ、企業がサステナビリティにおける新たな課題や機会にダイナミックに対応できるようにすることを目的として、新しい持続可能性の評価基準の統合や、新たなグローバルスタンダードとの整合性の向上についても、更新プロセス時に行われている。
- 方法論の更新に関するより詳細な情報は、社会的・経済的インパクトとバリューチェーンの川下に関するそれぞれの方法論に関する書類に記載されており、VBA方法論に関する他のすべての出版物とともに、[VBAのウェブサイト](#)で入手可能である。



注：GVA指標と他の指標（例えば、生活賃金）の間には重複が存在する可能性がある。これらの潜在的な重複に対処するためには、さらなる手法の検討が必要である。異なる指標の結果は加算されない。 6

バリュー・バランスング・アライアンス(VBA)の第2次パイロット結果

- VBAが実施したパイロット・スタディは、様々な業界におけるIMV手法の実践的な適用と、堅牢性、ビジネス・ステアリングとの関連性をテストするため、2021/2022年に試験的に導入された。株式会社三菱化学グループやSAP等の11業種、19社のVBAメンバー企業がパイロット・プログラムに参加し、その中には初めてVBA手法を使用する企業もあった。これらの企業はすべて、更新された方法論の適用に成功し、この方法論が業種を問わず実際に容易に適用できることを示した。これは、VBA手法が多様な業種にうまく適用でき、広範な企業に採用可能であることを示す、重要な結果である。
- 12の指標と291のサブ指標に基づき、企業はそのバリューチェーンに沿って、環境、社会、人間、そして経済的な社会への影響を総合的に評価した。また、前項で述べた①児童労働（基本的人権の侵害による社会的悪影響）、②強制労働、③生活賃金からの影響（労働安全衛生指標）という、3つの追加指標活用を試験的に行い、実務者の視点からこの指標の実用可能性の実証することに成功した。
- ほとんどの企業は、直接的な事業とその川上のバリューチェーンが及ぼす影響を評価した。川下への影響は、企業経営にとって非常に重要であるが、入手できるデータの不足や製品ポートフォリオの複雑さにより、評価することは非常に困難である。
- 総論として、企業は理論的なフレームワークを実行可能な洞察に変換することで、実践的で現実的な設定で方法論を実施できることが示された。これは、このような包括的な方法論の実用性に懐疑的な企業の考えを変える重要なエビデンスである。



“2回目のパイロットでは、インパクト・マネジメントのトピックについてさらに理解を深めることができました。SAPは、この有望かつ重要な領域において、バリュー・バランスング・アライアンス(VBA)との関与を継続することを楽しみにしています。”

ダニエル・シュミット SAPサステナビリティ最高責任者

※他参加企業のコメントは、[2nd Value Balancing Alliance Pilot Study \(バリュー・バランスング・アライアンス第2次パイロットスタディ\)](#)を参照。

より良い情報に基づいた企業の意思決定

VBAの方法論は、以下の3つのポイントにより企業の意思決定を強化する。



Sustainable
sourcing of raw materials



Sensible use of
waste heat



Investing in R&D for sustainable
building solutions



Social impact
of medicines

01

非財務的影響の定量化：
環境、社会、経済的影響を金額に換算することで、財務的指標とともにリスクと便益を包括的に評価することができる。

02

透明性とステークホルダー・エンゲージメントの強化：
透明性の高い報告は信頼を築き、責任あるビジネス慣行に対するステークホルダーの高まる要求に応え、評判とステークホルダーとの関係を改善する。

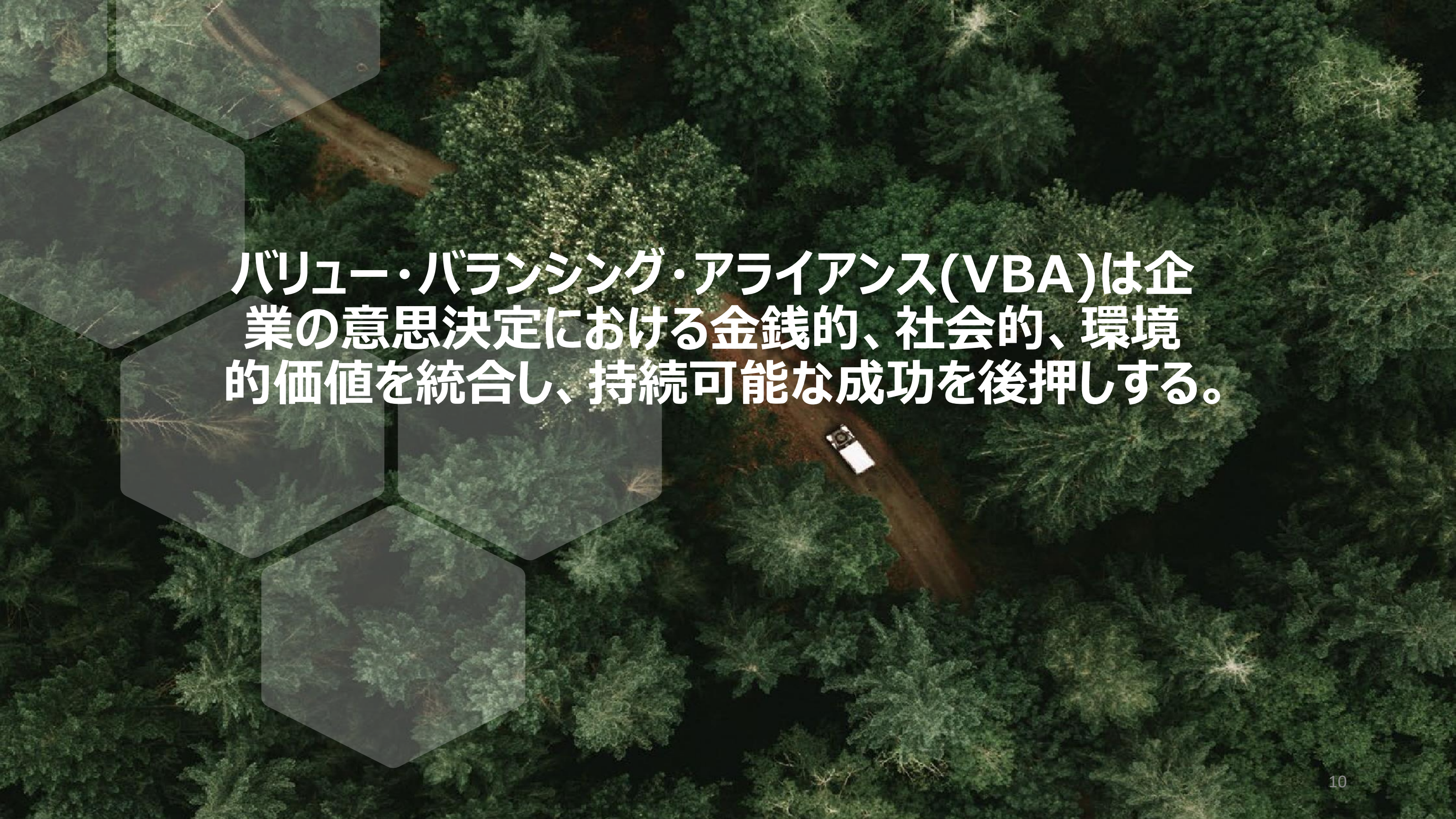
03

サステナビリティの戦略的統合：
イノベーションと成長のための持続可能な機会を特定し、グローバルスタンダードとの整合を促し、国際規範への準拠を確保することで、長期的な価値創造を促進する。

今後の見通し

- 今後、VBAは、より広範なインパクト・カテゴリーを取り入れるために、方法論を拡大しグローバルな基準設定機関との連携を深めていく予定である。これらの強化は、VBA手法のグローバルな適用性を向上させ、より統合的で包括的なサステナビリティ報告手法の開発を支援するものである。VBAは、企業が現代の複雑なサステナビリティの課題に対応できるよう、インパクト測定のイノベーションを推進することを約束する。
- 本レポートの注目すべき成果の1つは、「インパクトを効果的に評価するための、より詳細で業界特有のガイダンスの必要性を示したこと」である。このフィードバックは、VBAの手法のさらなる発展を促し、特定の業界とその業界特有の課題のニーズを確実に満たすことができる。





バリュー・バランスング・アライアンス(VBA)は企業の意思決定における金銭的、社会的、環境的価値を統合し、持続可能な成功を後押しする。